

ネットワーク九州協組

連携力で勝ち残り

「KIT」有志、福岡で交流

【福岡】ネットワーク九州協同組合（永山浩二理事長）は6月23日、福岡市で、第3回「WebKIT有志の交流会 in 福岡」を開き、全国各地から経営者や幹部社員ら78人が参加した。福岡県での開催は初めて。「九州から元気を全国へ」をスローガンに掲げ、交通事故防止対策や環境保全、労務管理対策などを学び、業界が直面する課題について活発に意見を交わした。

（上田 慎二）

永山理事長（福岡ロジテック社長）は、国内市場縮小による荷動きの低迷や、関越自動車道での高速ツアーバス事故に触れ「安全管

理、労働環境改善は急務の課題」と挨拶。その上で、「進化論で有名なダーウィンは『変化に対応できるものが生き残る』と語った。中で競争に勝ち残り、厳しい

小企業経営はまさに変化に対応する仕事だ。1社の力は小さくても、志の高さとWebKITによる連携力

時代を切り開いていこうと呼び掛けた。



「志と連携力で厳しい時代を切り開こう」と呼び掛ける永山理事長

研修会では、中田商事（三重県伊賀市）の中田純一社長が自社で採用している時間給制度を説明し、労務管理対策や人材育成の取り組みを紹介した。

懇親会では、トヨタライ

セイワ輸送（千葉県千葉市）の杉本竜彦社長は、人材育成のプレゼンテーションを競い合う「トラックドライバ―甲子園」を提案。全国フェイスブックトラック

協組の中山知治理事長（中山運送店専務、東京都世田谷区）がネットワークの活動内容に触れた。

懇親会では、トヨタライ